

結成20周年  
新たな大躍進  
に向け出発!

# 月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番

(公) 043 (222) 7207 番

2000.7.17 No. 5167

## 「90・3スト損害賠償請求事件」

# 千葉地裁の反動判決弾劾!

七月一四日、千葉地裁民事三部・園部裁判長は、九〇年三月に動労千葉が実施した前倒しストに対して、JR東日本が「目的、手続、態様について違法」として二〇〇〇万円にのぼる損害賠償を請求していた「九〇・三スト損害賠償請求事件」について、動労千葉に対して一四〇〇万円にのぼる損害金を支払えとの反動判決を言い渡してきた。この判決は、労働者の団結権やスト権を不当に制限する反動判決であり、絶対に許せないものである。

動労千葉は、満腔の怒りでこの反動判決を弾劾するとともに、控訴審での勝利に向けて全力で闘いぬくものである。

### 弾劾されるべきはJR東日本

九〇年三月のストライキは、清算事業団三年目の解雇を目前にして、二月に千葉地労委から出された「一二名をJRに採用したものとして扱え」という救済命令の履行をJR東日本に求めて実施された闘いである。しかし、JR東日本は、千葉地労委の命令を履行するどころか、スト前日には千葉運転区での職制によるピケ、津田沼では組合事務所をフェンスで囲うなど組合事務所への通行妨害を行なってきた。これらは、組合

活動に対する支配介入、明確なスト破壊攻撃であることから、ストライキの実行性を確保するために止むを得なく戦術拡大の一二時間前倒ししてストライキを実施したものであり、本来弾劾されるべきはJR東日本なのである。

### 動労千葉の主張は一〇〇%正義

この点については、千葉地労委はJR東日本のこうしたスト妨害を不当労働行為と認定し、組合員の処分を取り消すように救済命令を発している。

判決では、「構内への立入り拒否及びフェンス設置に対する抗議といった要素が含まれていた」「動労千葉組合員を構内に入れなかったのは、職場環境を適性良好に保持し規律ある業務の運営体制を確保するように当該施設を管理利用する目的に出たもの」「フェンス設置は代替乗務員の安全確保、操業の自由を維持する目的に出たもの」「動労千葉による前倒し実施の目的のうち、(フェンス設置等)に対する抗議については、正当なものとはいうことはできない」などとして、動労千葉の主張を斥けるなど、絶対に認めることのできない判断を下している。

### 信義則を破った

### のはJR東日本だ

スト実施の方法については、前倒しスト実施の予告を不当にも「五分前」などとした上で、「労使間にある程度スト予告に関する信頼関係がある築かれていた状態で、・・・打撃の大きなストライキを前倒しで実施するに際しては、・・・信義則上、争議を行なう側に十分な猶予期間をおいて事前通知義務が課されている」などと、全く許せない判断を行なっている。本件スト以前までは構内への立入りや組合事務所への通行を認めていたにもかかわらず、本件ストでは全く認めないばかりか、前項のような対応にでるなど、労使の信義則を一方的に破ったのはJR東日本だ。こうした事実を全く無視した判決は断じて許すことはできない。

### 前倒しストの主要因はJR東日本にある!

しかし、この反動判決にいたっても、JR東日本のあまりにもでたらめな主張の部分については、これを斥けている。

列車の「転動防止」が行なわれなかったことを理由にして「違法スト」とするJR東日本の主張については、「違反が運心や執務標準違反となるとしても、争議行為として行なわれた

ということには疑問が残る、JR東日本の主張は失当」としている。またスト実施の態様については「三月一八日正午の時点で、組合員割当ての運転区間の運転業務が終わってストに入るというもので、正午に一斉にストに入るのと比較すれば、やや穏便な態様であった」としており、JR東日本が「乗務の途中で列車を放棄した」なる主張は全く認められていない。

さらに、本件ストに至った経緯についても、「入構要求やフェンス設置工事の中止要求を頑なに拒否したことに端を発している」「JR東日本は、前倒しスト実施直前に動労千葉との交渉の機会を設けなかったため、動労千葉がこれを組合攻撃のための不当労働行為ととらえたことが主要因である」として、二〇〇〇万円の損害賠償請求の内三割についてはJR東日本の責任とせざるを得なかったのである。

### 勝利判決獲得へ全力で闘いぬく

動労千葉は、労働者の権利であるスト権を不当に制限する本判決の反動性を明らかにして控訴審での勝利をかちとるとともに、JRとJR総連軍マルの結託体制打倒!組織強化・拡大!闘う労働組合の全国ネットワークをつくりあげるために全力で闘いぬくものである。